

バスケットボール戦評記入用紙

大会 (新人・春季・インターハイ・夏季)
 試合 (決勝・準決勝・決勝リーグ・5-7位決定戦・代表決定戦・その他)
 日時 6月20日 金曜日 第2試合 時刻11:30
 記入者名 祐木 毅

A チーム	得点		得点	B チーム	
<u>慶應志木 高校</u>	<u>50</u>	(74	<u>川口北 高校</u>	

戦評

第1P、出だしは両チーム共にマンツーマンディフェンスでスタートする。先手を取ったのは川口北。堅いディフェンスからアーリーオフェンスに転じ、#13、#4のミドルシュート、#10の3Pシュートでリードする。一方慶應志木は#8がシュートを放つも決まらず得点できず川口北ペースで試合は進む。残5分、慶應志木のタイムアウト後#7の1on1、#5のポストプレイからの得点で食らいつく。

第2P、開始早々、川口北がアーリーオフェンスから#6の3連続ミドルシュート、#4のロングドライブからのレイアップシュートで流れを掴む。14点差になったところで慶應志木はタイムアウト。このまま流れは川口北かと思いきや、慶應志木#5のアーリーウープがバスケットカウントになり、なんとか踏ん張る。第1P、不調だった慶應志木の#8のジャンプシュートが決まり12点差に縮めて前半終了となる。

第3P、川口北#13が連続でジャンプシュートを決め流れに乗る。川口北#10の3Pシュートが決まり点差が19点になったところで慶應志木はタイムアウト。慶應志木はディフェンスをゾーンプレスから2-3ゾーンに変え、巻き返しをはかる。好調だった川口北のシュートが落ち始め、慶應志木#4の3Pシュート、#5のリバウンドシュートが決まり13点差に縮め第4Pに望みをつなぐ。

第4P、慶應志木は#5、#8のインサイドプレーヤーの得点で9点差とし追い上げる。しかし川口北#11の連続得点で点差はこれ以上縮まらない。慶應志木は#4の3Pシュートで何とか逆転をしようとするが、川口北は落ち着いたパスさばきでゾーンディフェンスを攻略し、得点を決める。最後まで慶應志木は粘りを見せ、反撃を試みるが、川口北はこれを寄せ付けず決勝リーグの初戦を勝利した。